

要約の特訓 中

- ・ 楽しく文章を書こう・
- ・ 文章の読解と要約の特訓・

難易度	易	1	2	3	4	5	受験	難
		←————→						

も く じ

「要約の特訓 中」について……………	2
このテキストの使い方……………	3
問題一……………	4
テスト一……………	16
問題二……………	20
テスト二……………	32
問題三……………	36
テスト三……………	48

(解答のページは、各問題のページに記してあります)

「要約の特訓 中」について

このテキストは、文章の要旨を正確につかみ、文章を短く要約する練習をするものです。文章の要旨を正確につかむということは、高い読解力を持つということに他なりません。読解力は、すなわち国語力そのものですので、このテキストは、高い国語力をつけるための直接的な効果が期待できるものです。

小学生に対して、文章を書かせる勉強には、この「要約」の他に「作文」、「読書感想文」などがあります。「作文」はいわば「随筆文」です。「読書感想文」はいわば「書評」です。「随筆文」や「書評」などを書くには、高い創造力と批評力が必要となり、「随筆文」や「書評」は大人でも書くのが難しい文章です。ですから一般的な小学生や中学生ぐらいの子どもに「作文（随筆）」や「読書感想文（書評）」を書かせることは、仮にきちんと文章を書く指導をしたとしても、かなり困難な作業です。ましてや、書く指導をしないまま、「思ったまま書いてみましょう」「感じたことをそのまま書きましょう」程度の指導で、「作文」や「読書感想文」を書かせることは、子どもを「書く」ことから遠ざけ、嫌いにする要因の一つになっていると思われれます。

小学生に対して「書く」指導を行う場合は、まずは「要約」（あるいは「あらすじ」）から入るのが、子どもにとって負担が少なく、取り組みやすいので、たいへん良いのです。作文や感想文嫌いの子どもでも、比較的容易に、楽しく文章を書く練習ができるように、そして、国語力が向上することを願って、このテキストは作成されています。

このテキストの使い方

解答らんのマスは、文字数をかんじようするためのもので、文字も記号も必ず一マス使います。作文を書くときのルールとはちがいますので、注意して下さい。

*最初のマスを空ける必要はありません。最初のマスから書き始めましょう。

×

園	
の	わ
桜	た
の	し
木	は
の	き
下	の
に	う
座	、
座	、
っ	公
っ	公

○

の	わ
桜	た
の	し
木	は
の	き
下	の
に	う
座	、
っ	公
て	園

*読点（、）、句点（。）、カギカッコ（「」）などの記号も、必ず一マス使います。

×

の	太
探	郎
検	君
に	が
行	「
こ	今
う	度
。	、
」	裏
と	裏
言	山

○

の	太
探	郎
検	君
に	が
行	「
こ	今
う	度
。	、
」	裏
と	山

*小さな「っ」や読点（、）、句点（。）、カッコ閉じる（」）が行の一番上に来る場合でも、カッコ開く（「）が行の一番下に来る場合でも、必ず一マス使ってかきます。

×

ク	明
ラ	日
ス	に
の	な
み	れ
ん	ば
な	お
で	そ
植	ら
え	く、

○

、	明
ク	日
ラ	に
ス	な
の	れ
み	ば
ん	お
な	そ
で	ら
植	く

■一文を要約する 一

◆書きぬき

問題一、後の□に合うように、例にならって、次の文を要約しなさい。ただし□に入れる言葉は、元の文から書きぬくこと。句読点（、と。）や記号など（「」・など）も一文字として、一マスつかって書きなさい。

例、久しぶりに、沖繩に住んでいるおじさんの家に、遊びに行きたいなあと、このごろぼくはよく思っている。

は		
	に	の
い		
る		
。	と	の
	、	
		に

答

く	遊	沖
は	び	繩
思	に	の
っ	行	お
て	き	じ
い	た	さ
る	い	ん
。	と	の
	、	家
	ぼ	に

「チャレンジ1」が10ページにあります。

■一文を要約する 二

◆まとめる 一

問題二、後の□に合うように、例にならって、次の文を要約しなさい。□に入れる言葉は、元の文の言葉を使って答えなさい。□に当てはまるように、自分で書きかえてもかまいません。句読点（、と。）や記号など（「」・など）も一文字として、一マスつかって書きなさい。

例、アメリカ人の動物学者であったエドワード・モースという人物は、東京大学の教授をつとめていた当時、汽車で移動中に、大森貝塚を発見しました。

。	、		
	を		
		は	の

解答例

。	、	エ	ア
	大	ド	メ
	森	ワ	リ
	貝	ー	カ
	塚	ド	人
	を	・	動
	発	モ	物
	見	ー	学
	し	ス	者
	た	は	の

「チャレンジ2」が26ページにあります。

1、土で作られた人形で、魔よけや安産、その他さまざまなか
 とをいのるために用いられたと考えられているのが、土偶で
 す。

			魔
。			
			な
			ど
人			を
形			
が			

2、また同じ土人形でも、土偶より後の時代に作られ、土偶よ
 り堅くてじょうぶで、主に古墳の副そう品として発掘される
 素焼きの土器を、埴輪といえます。

			土	土
			偶	偶
			よ	よ
			り	り
。		か		
		ら		
				、

解答は27ページ

■ 一文を要約する 三

◆ まとめる 二

問題三、例にならって、次の文を指定された字数で要約しなさい。ただし文中の**太字**の言葉は必ず使ってまとめること。

例、**室町時代**になると、元々**朝廷**の役人であった**守護**が、**管理**を任された**土地**をまるで自分のもののように**支配**するようになり、**守護大名**とよばれるようになってゆきました。

(60字以内)

解答例

よ	、	に	地	よ	室
う	守	支	を	り	町
に	護	配	自	管	時
な	大	す	分	理	代
っ	名	る	の	を	、
た	と	よ	も	任	守
。	よ	う	の	さ	護
	ば	に	の	れ	が
	れ	な	よ	た	朝
	る	り	う	土	廷

「チャレンジ3」が42ページにあります。

1、室町時代、有力な守護大名であった細川氏と山名氏が争い、またその争いに將軍や管領のあとつぎ争いが複雑にからんで、**応仁の乱**という十一年もの長きにわたる戦いとなりました。(45字以内)

2、**室町時代**に発達した**書院造**は、部屋にはたたみがしかれ、違いだなや床の間もあり、現在の**和風住宅**のもととなりました。(30字以内)

解答は43ページ